

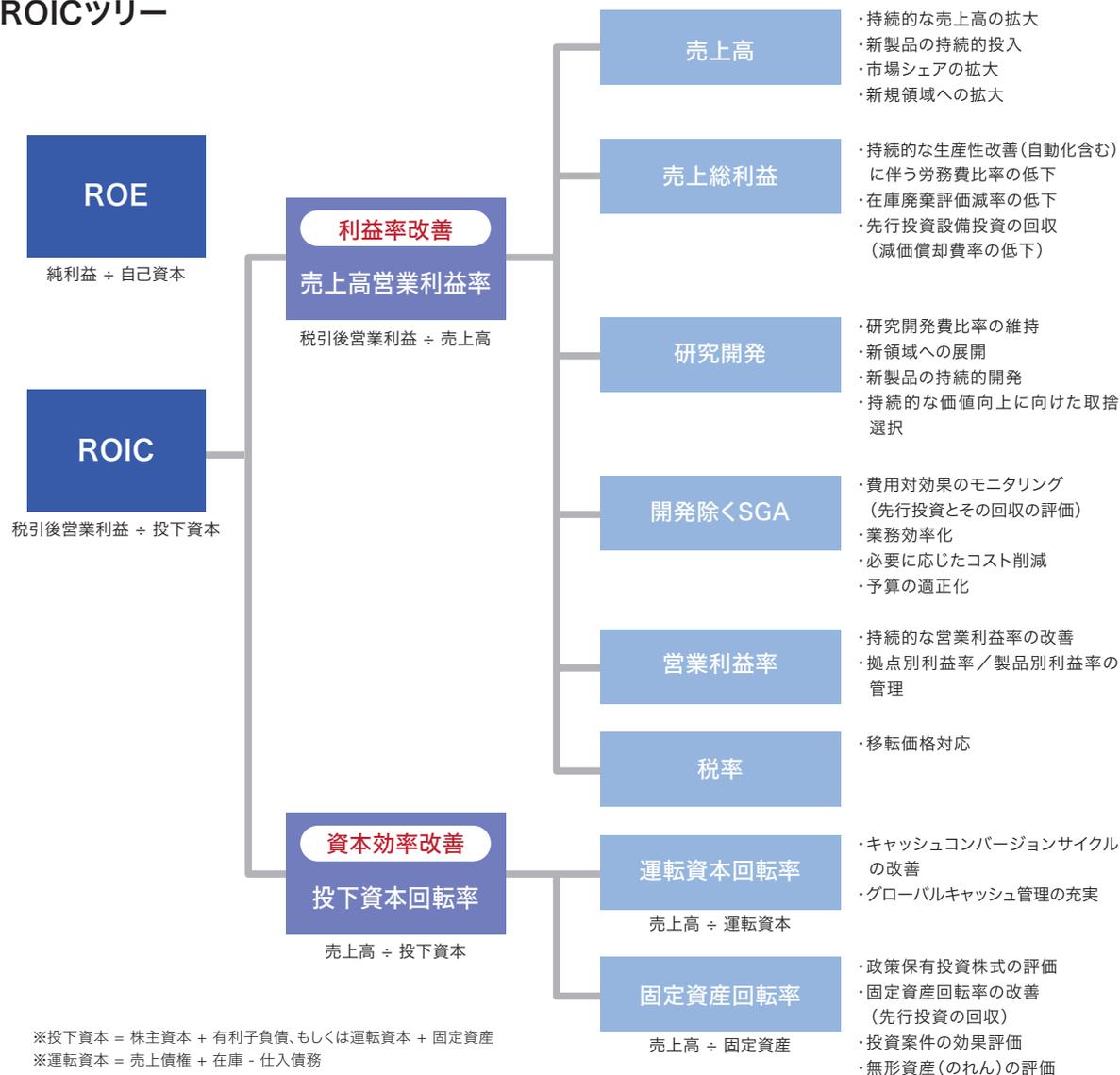
4-2 財務戦略

財務戦略の基本的な考え方

当社グループは、資本効率の向上等を通じて財務基盤をさらに強化した上で、資金を積極的な成長投資と安定的に継続した株主還元最適に配分することで、持続的な成長と安定的な収益の確保を実現し、企業価値の向上を目指してまいります。

また、「資本コストを意識した経営」を実践し、企業価値を最大化することで、すべてのステークホルダーに貢献することを目指してまいります。「資本コストを上回るリターンの実現」のため、ROIC ツリーによる資本収益性 (ROE・ROIC) の改善や、資本コストに基づく投資意思決定の強化などを進めています。

ROICツリー



4-2 財務戦略

》 キャピタル・アロケーション

当社グループでは、中期経営計画『ASAHI Going Beyond 1000』の戦略に基づき、既存事業（循環器・非循環器）の成長に加え、新規事業の立ち上げ推進を進めており、当中期経営計画の最終年度の目標値である売上高 1,100 億円を超えて、さらに成長するための布石を積極的に打ちつつあります。

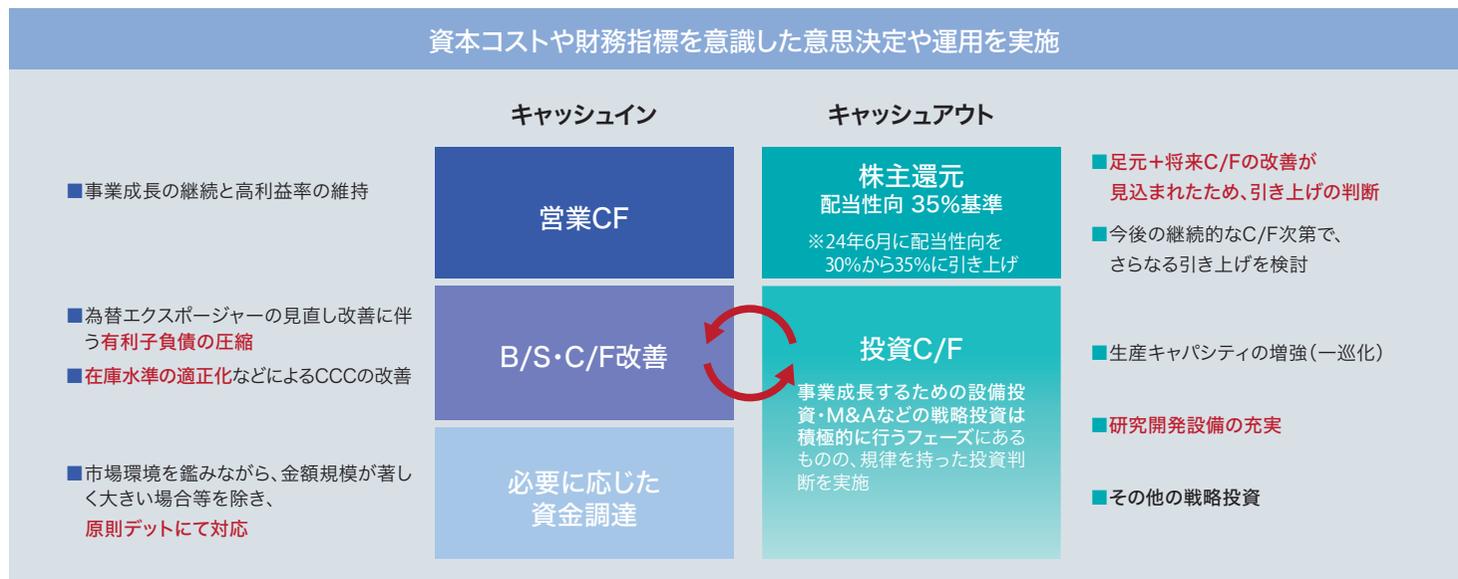
特に、戦略的事業領域である医療機器分野に対して、M&A を含む株式取得や提携への投資、設備投資、研究開発投資などの先行投資を積極的に進めています。そのよ

うな中、成長戦略と財務戦略のバランスを重要視しながら、成長に向けたキャッシュフローに対する規律や資金配分を示したキャピタル・アロケーションは、下記と考えています。なお、当キャピタル・アロケーションは、機関投資家の方々との対話を通じて、柔軟な見直しを図っています。

資金の源泉は手元資金と営業キャッシュフローがベースとなるため、資金創出力と資金効率の向上に努めています。資金創出力の向上については主な投資や新製品・新事業の案件を NPV：Net Present Value（正味現在価値）法や IRR：Internal Rate of Return（内部収益率）法などの資本コストおよびキャッシュフローを用いた手法で評価

しており、資金効率向上についてはグローバルでキャッシュマネジメントシステムを活用し、日本・米国・欧州地域のグループ会社の余剰資金を親会社である朝日インテックに集約しています。また、キャッシュマネジメントシステムの活用により外貨建ての資産および負債の一元管理が可能となり、為替リスクの軽減にもつなげています。

なお、外部からの資金調達が必要な場合は、金額・時期・期間等さまざまな条件を踏まえて、金融機関からの借入など最も適切と考える方法により調達します。



4-2 財務戦略

▶▶ 当社グループの重要経営管理指標 および資本コスト等

当社グループの重要な経営管理指標としては、売上高、営業利益、営業利益率としています。営業利益率については、現在におきましては20%を目安とし、経営の主要パフォーマンスであるEBITDA（営業利益+のれん償却額+減価償却額）率については、30%を目安にすることを指標としています。今後はその率の改善や新たな目標設定を進める所存であり、新中期経営計画の開示の段階で示してまいりたいと考えています。

また、財務指標としては、ROE（自己資本利益率：Return On Equity）とROIC（投下資本利益率：Return

On Invested Capital）を注目すべき指標として定めています。ROEおよびROIC（「運転資本+固定資産」を投下資本として算定）については、資本コストを上回ることに加えて、共に10%を超えることを基本水準としており、改善を目指してまいります。なお当社グループは、為替ヘッジを目的に外貨建て借入を行っているため有利子負債が大きくなっていったことから、「株主資本+有利子負債」を投下資本とした場合には、当社実態を正しく反映することができないものと考え、ROICについては「運転資本+固定資産」を投下資本として算出していました。しかしながら、昨今の外貨建借入の利率の上昇に伴い為替エクスポージャーの見直しを図り、大幅に外貨建借入金を減少させました。よって今後のROICについては、現在の「運転資

本+固定資産」を投下資本する手法に加えて、「株主資本+有利子負債」を投下資本とする手法についても併記し、注目指標として適用してまいります。

なお、WACC（加重平均資本コスト）につきましては、2024年6月期時点にて6.3%と考えています。WACC（加重平均資本コスト）はリスクフリーレートや株式市場の動向を勘案した上で、定期的に見直しを実施しています。主な投資や新製品・新事業の案件については、資本コストを適用したNPV：Net Present Value（正味現在価値）法やIRR：Internal Rate of Return（内部収益率）法などを適用した検討の運用をしています。

当社のROIC = NOPAT ÷ (運転資本+固定資産)

NOPAT = 営業利益 × (1 - 法定実効税率 (現状30.6%))

運転資本 = 流動資産 - 流動負債

= 売上債権 + 棚卸資産 + 未収入金 - 仕入債務 - 未払金 - 前受金

固定資産 = 貸借対照表上の固定資産

一般的なROIC (負債側ROIC) = NOPAT ÷ (有利子負債 + 株主資本)

NOPAT = 営業利益 × (1 - 法定実効税率 (現状30.6%))

有利子負債 = 借入金の総額

株主資本 = 自己資本 (純資産 - 非支配株主持分)

経営管理指標の推移

	基本水準	2022/6月期	2023/6月期	2024/6月期	要因
営業利益率	-	19.6%	20.0%	20.6%	自己資本の増加があるも、利益改善により増加
EBITDA率	30%基準	29.2%	29.7%	29.6%	
ROE	10%以上	10.2%	10.4%	11.2%	
ROIC (資産側)	10%以上	10.9%	10.7%	12.1%	在庫の減少や、前受金の増加により増加
ROIC (負債側)	-	9.1%	9.0%	10.1%	利益改善により増加
WACC	-	5.0%	5.5%	6.3%	下図参照

資本コストの内訳

		2022/6月期	2023/6月期	2024/6月期
開示資本コスト		5.0%	5.5%	6.3%
①加重株主資本コスト	株式比率 (約99%) × (a+b×c)	4.90%	5.52%	6.28%
リスクフリーレート：a	補正10年国債金利5期平均	0.07%	0.14%	0.35%
β値：b	月次5年ベータと週次2年ベータの5期平均を基に算定し、将来値算定のための補正計算	0.824	0.913	1.000
マーケットリスクプレミアム：c	日本企業の平均的な株式資本コストを採用各社アナリストレポートでの推計値と照合	6%	6%	6%
②加重負債コスト	負債比率 (約1%) × 負債コスト × (1 - 法人税率) 負債コスト：SWAP5年レートの5期平均+スプレッド (0.5%)	0.01%	0.01%	0.01%

4-2 財務戦略

国際税務

グローバル展開が進むにあたり、国際税務の重要性は増えています。

税務上の課題に対しては、税理士法人などの外部専門家のサポートを受けながら、誠意を持って取り組み、事業展開国の税務当局に対して透明性と信頼性を確保するよう努めています。なお、移転価格については、各国・地域の税法およびOECD（経済協力開発機構）ガイドラインを遵守するなどし、独立企業間価格となるように適切な管理に努めています。移転価格課税リスクの高い取引については、APA（事前確認制度）を活用することで税務リスクを低減しています。

株主還元

当社グループは、グローバル規模での事業展開を実施しており、常に企業価値の向上を目指しています。事業活動から得られる成果の一部は、株主の皆様に対して利益還元することが重要課題の一つとして認識しており、長期的な視野に立ち連結業績などを考慮しながら、配当を安定的に継続して実施することを基本方針としています。

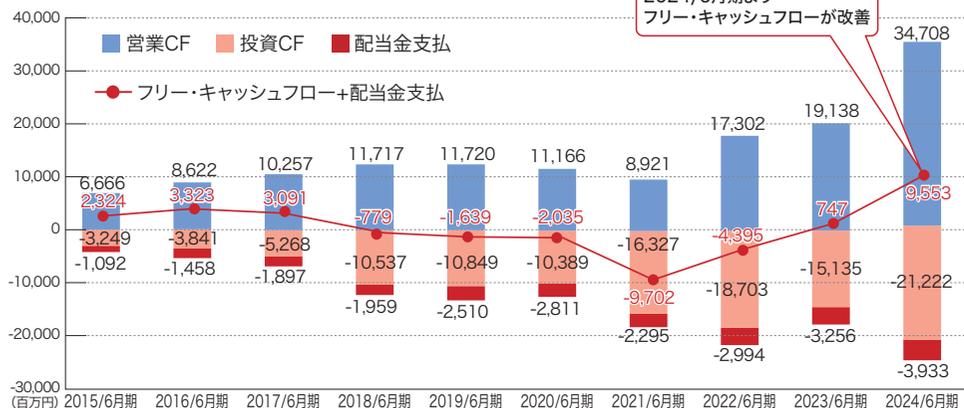
なお、この数年間におきましては、設備投資や買収を含めた投資などを積極的に行っており、また薬事法対応に起因して在庫も増加傾向にあったために、フリー・キャッシュフローが一時的に低下しておりました。しかし、設備投資の先行投資や在庫増加が一巡化したことに加え、更なる業績拡大によって、今後は営業活動によるキャッシュフローで投資キャッシュフローと配当金の支払いなどが賄えるよ

うになるため、株主の皆様への利益還元の更なる充実、および株主層の拡大を図ることについても重要と考え、連結配当性向の見直しを行いました。2024年6月期の剰余金の配当より、連結配当性向についてはこれまでの「30%を目処に」から「35%を目処に」へと引き上げることとしました。今後もキャッシュフローが継続的に安定して見込まれるのであれば、配当性向の見直しについても、柔軟に考えてまいります。

現在の配当金額につきましては、連結配当性向35%を目処にしつつ、長期的な視野のもと当期の連結業績、今後の業績見通し、内部留保の水準などを総合的に勘案しながら算出しています。内部留保資金につきましては、将来の成長に不可欠な研究開発や設備投資資金、事業投資資金などに充当することにより、業績の向上に努め、財務体質の強化を図ってまいります。

財務サマリーについては、137ページをご参照ください。

フリー・キャッシュフロー+配当金の推移



1株当たり配当金・連結配当性向 推移

